



## 謹賀新年 2024年正月



麻布台ヒルズJP森タワー



麻布台ヒルズレジデンス

### ■ ご挨拶 会長 高石 勝巳 明けましておめでとうございます

昨年も幸・不幸とり混ぜていろいろな出来事がありました。我々の身近な好事3点程に絞ると私には次のようなことが思い浮かびます。



まずは3年余に亘り猛威を奮ったコロナも5月には5類に移行し、日常生活には大きな支障はなくなりました。これにより我々のシニアクラブ総会も書面総会から従来通りの対面へと移行することができ、その他のイベントも漸次復活できてきたことは、まことに慶賀に堪えません。しかしコロナは完全に収束することはないようです。が、普通のカゼ程度に収まって欲しいものと願っております。

次に日本の若者が世界を舞台に大活躍するようになりました。サッカー然り、ラグビー然り、とりわけメジャーリーグの大谷翔平選手の活躍は目を見張るものがあり、その実績は破格のものがあります。また、プレイそのものの他にグラウンドでの態度やマナーがおおくのファンを熱狂させています。

年末に公開されたドジャースとの契約はその金額の莫大さとも相俟って今や彼はベースボール世界のスーパースターと言えらると思います。近年多くの日本選手がMLBに移籍しています。是非とも大谷選手に引き続くスターが現れて欲しいものと念願しております。

3点目は将棋界のスーパースター藤井総太八冠の出現です。私は日曜日のNHK将棋講座を良く見る程度の将棋ファンですが、藤井八冠の強

さとその人間性にはただただ感服するばかりです。

私の年代の将棋ファンは羽生九段（現：将棋連盟会長）の当時の七冠全制覇を良く覚えています。風貌も藤井八冠とは対称的に厳しいものがあり、特に「ハブ睨み」は良く話題になりました。

将棋界にはもうこの人以上に強い人は将来とも現れないだろうと思っていましたが、人工知能AIを駆使して将棋界のトップに立った藤井八冠の出現で、AIがこれからの人間社会をどんどんと変化させ、進歩させてゆくのだと実感しております。

### さて、今年はどうなるのでしょうか。

世界の情勢は決して楽観できる状況にはありません。ウクライナやガザ地区での争いは続き、環境の大きな変化による難民問題等、ヨーロッパを始めとして世界は大きな政治課題を抱えています。

日本では諸課題を抱える政権への支持率が低下し、国民の政治への期待は萎んでいます。

子育て世代への給付を検討する一方で、増税話もあり、世の中諸物価高騰の中で私たちの生活への影響は避けられないこととなるでしょう。

私たちの世代は一面で高福祉の逃げ切り世代とも言えますが、次の世代の人たちのことを思うと腹をくくった生き方が求められます。健康寿命に気を使い、できるだけ自立し、時にはボランティアなどで社会活動に力を注ぐことも大切です。

今年もシニアクラブを通じて元気に活動しましょう。この一年、過ごした後にこうはならないように・・・  
～ともかくも あなた任せの 年の暮れ～ <一茶>

## ■ Online 会合報告 (2023.12.26)

昨年は広重の浮世絵「東海道五十三次を始めとし街道ものを中心に当時の旅や道中の景色、そして絵の中に隠された絵師の意図や思いを見てきました。そして今回はその総集編となりましたが、「旅行用心集」について紹介しました。

年末の忙しい中、サンタさんも登場しています。  
<http://jvc-senior.com/20231226online.pdf> 参照



## ■ 麻布台ヒルズオープン

昨年11月、「麻布台ヒルズ」が東京・神谷町に誕生しました。メインとなる「JP森タワー」はロシア大使館のすぐ前で、旧郵政省の別館があったところ。東京メトロ日比谷線「神谷町」駅から直接に続くプロムナード街も整備され、周辺の景色は一変しました。64階建て、高さ325mは現在日本一高いビルです。



33階にあるスカイロビーは34階との吹き抜けで開放的な空間。西から南、東の方面が展望できます。



東京タワーの展望台が下に見えます。

本紙巻頭の写真を撮るために12月21日に行ってきました。オープン間もなくですでしたが、これから多くの人で賑わうことになるのでしょう。

この展望フロアーから上の階は居住空間とのこと。最高価格はなんと**300億円!?との噂も。**

大谷選手は10年契約1000億円、同じドジャースに入団が決まったオリックス山本由伸投手は12年契約で450億円、彼らにしても容易に手が届くものではなさそうです。庶民にとって全く縁のないところですが、一体どんな人が買うのでしょうか。

## ■ EV (電気自動車) は本当にエコ?

EVの普及が世界で加速しているようです。次の資料は世界の電気自動車(EV)の動向です。

<https://ev-charge-enechange.jp/articles/139/>

この資料によると世界の新車販売台数に占めるEV(BEV/バッテリー車・PHEV/プラグインハイブリッド車)の比率は、2022年時点で14%となっており、とりわけ北欧ノルウェーでは88%と非常に高い割合を占めています。ヨーロッパ全体では21%となり、日本は3%でしかありません。EV販売台数も世界の僅か1%で、日本はEV化の流れに大きく遅れをとっていると報じられたりしています。

中国は29%と特にEVに力を注いでいますが、国内の需要を大きく上回る過剰生産で“EVの墓場”なるところに野ざらしのまま放置された映像などがネットに載せられています。エコカーでエコ化どころかこれは大変な資源の無駄遣いです。

また、中国では発電の約60%が石炭に頼っています。毎年冬には暖房と排気ガスでスモッグに覆われていた北京の空はEV普及で青空が戻ってきたとの報道もありましたが、発電所周辺の空はどうなっているのでしょうか。車が増えれば増えるほど発電しなければならなくなります。そして充電ステーションも各地に増やしていかなければなりません。

ノルウェーでは急激なEVの普及で充電インフラが追い付かず、充電渋滞が生じています。95%以上が水力発電のため、EV普及は極めて環境に良いものと言えますが、北海油田で採掘される原油を国外に売った金でEV普及のための補助金政策やインフラ整備を進めているので、“ノルウェーの矛盾”とも呼ばれています。

ともあれ、EV化の流れはこれからも加速していくでしょう。1月24日～26日には東京ビッグサイトで次のような展示会が開催されます。関心ある方はご覧ください。

そして、皆さんの思う所もお聞かせください。



## ■ 事務局から

12月8日に「男の料理教室」を開催しました。続いて2月11日には「そば打ち体験講座」を開催します。報告と案内は <http://jvc-senior.com/20240211soba.pdf> 参照。今年度のシリーズ企画と考えています。皆様のご参加をお待ちしています。これからのご案内にも注目していただきます。事務局長 田代 周